

昭和55年度
(1980)
第20回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

あいにくの天候不順とぶつかって、大会第1日は開会式と一部の試合にとどまり、当番校はコート整備にほとんど時間を費やした。まずその献身的な努力に感謝の意を表したい。

団体戦は男女とも札幌の対戦となったが、男子は層の厚い藻岩の4連覇なる。昨年全国ベスト8の自信からか、危なげない勝利であった。決勝で敗れた千歳北陽は全道初出場、今後の活躍が期待される。

女子は2連勝をねらう札幌静修と、若手の進境著しい清田の戦いであったが、ダブルスのせり合いで優位にたった清田が余勢を駆って初優勝を手にする。開校以来6年目、緒方紀子先生の指導の賜物であろう。

個人戦は、男女単複共札幌勢が強かった。試合経験の差が大きなものであろうが、各地方とも参加校が増えてきたので今後の切磋琢磨を期待したい。

また札幌勢を含め若手の有望選手が登場してきたのも楽しみである。男子では藻岩の嶋田、1年生の奥村、清田の菊地、また破れはしたが函館ラ・サールの高木・野村も来年が楽しめる選手である。女子では静修1年の土佐、清田の鈴木、林、佐々木の2年生トリオなど、総じて女子の方にレベルの向上のあとがうかがわれる。

【全国大会】

昨年度の男子、札幌藻岩にひきつづき、今年は女子で清田が初出場で見事にベスト8入りを果たした。とくに地元松山や、九州勢を破ってのことだけに堂々たる勝利であった。1回戦は楽勝であったが、2回戦、相手は松山商業(愛媛)、地元とあってか、中道の出足鈍くハラハラさせたが、ダブルスの勝利に気を持ち直して押し切る。3回戦、ダブルスがタイブレークの接戦の末に落としたが、中道よくがんばり1-1に持ち込む。No.2林、よく粘り遂にベスト8入りを果たす。準々決勝は、ダブルスがよくきたえられた園田学園に対し、立ちおくれが目立ちそのまま押し切られたが、初出場としては、よくその力を発揮し、またその主力が2年生でもあるため、明年が期待される。

男子は1回戦は楽勝したが、2回戦、選抜大会で好成績をおさめた立教とぶつかる不運

で再度のベスト8の挑戦はならなかった。

基本的な力では差がないと思われるがもう一つパワーがほしい。

個人戦は力が出し切れずに終わった選手の中でランキング選手の候補にあがった垣原選手の善戦がたたえられる。

(専門委員長 亀山 省吾)

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

全道制覇、これは我々にとっては目標であり、また“義務”でありました。先輩たちが初優勝して以来3連覇。我々が優勝すれば4連覇。とにかく、我々は、自分に課せられた“義務”を果たすことだけに集中しレギュラーをはじめ、全員が一丸となって、日夜練習を重ねてきました。“義務”達成。それも初戦から無傷の優勝。我々の喜びはいちだんと大きなものでした。

勝てるだけの、それなりの練習をこなしてきた我々でしたが、本当は、不安と恐怖で逃げだしたいくらいでした。なぜなら、先輩たちが築き上げてきた“伝統”があまりにも我々にとって巨大に思えたからです。けれども“伝統”の灯を消してはならぬ、絶対に消さないと心に誓い、一戦一戦を全力をだしてたたかいました。

今、感じることは、本当にテニスをやっていたと思います。続けていたおかげで素晴らしい仲間たち会えたからです。それになんといっても忘れてはならないのは、我々のために休みなく指導を続けて下さった先生と知りあえたことであり、これは一生の思い出となるに違いありません。

卒業していく3年……同じコートで練習した部員……として、後輩に望むことは、是非、“伝統”の灯をともし続けることを“義務”として、忘れないでほしいということです。

(札幌藻岩高等学校 主将 矢嶋 健二)

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

我が清田高校庭球部は、今年初めて高体連の全道大会で優勝を成し遂げ、長年の夢である全国大会への出場権を得ることができました。新人戦などでは何度か優勝を経験している私達も、高体連では初めてとあって、その喜びもひとしおでした。

今までの生活を振り返ると、毎日テニスに明け暮れそれこそ一日の休みも無く、文字通りテニスに始まり、テニスに終わるという生活でした。そういう苦しみを乗り越えて優勝を手にした瞬間、初めて手にした優勝旗の重みが、その間々私達が過ごしてきた三年間の重みであったような気がします。けれどもそうして北海道の代表に選ばれた以上、ただ喜んでばかりはいられません。私達には道の代表選手として、全国大会で一つでも多く勝つという、新しい目標ができたのです。次の日から私達はその目標に向かって、必死

に練習を始めましたが、あっという間に全国大会の日がきてしまいました。四国独特のむし暑さに負けそうになりながらも、一回戦を無我夢中で戦い抜き、その勢いに乗って初のベスト8に進出することができましたが、準々決勝では強豪園田学園と当たり、力の差をみせつけられ、まだ北海道のレベルは低いと痛感しました。私達は全国へ一歩踏み出したに過ぎませんが、これからは名実共に全国に通用するような部になるよう、後輩達の一層の努力を期待したいと思います。

全国高校総体（第70回全国高等学校庭球選手権大会） 愛媛

8月2日～9日 愛媛県総合運動公園庭球場

男子 個人戦シングルス 優勝 二本松 一（柳川商業）
女子 個人戦シングルス 優勝 井上 悦子（港南台）